

令和2年度 福井県立科学技術高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成する。	教員は94%授業計画通りに進められたとしている。授業の進度は「(ちょうど、おおむね)良かった」と答えた生徒は95%だが、「速く感じた」と答えた生徒が4%(昨年度3%)いる。	「学習と進度に関するアンケート」の結果を念頭に置きながら、生徒の理解度がより深まる授業を目指す。そのため、クラス別の教科科目の理解度を分析する。
	小テストの実施、ICT教材の活用、レポート・課題などを通して生徒の知識の定着を図り、学習到達度の自己理解を深めさせる。	レポート・課題の提出は、94%の生徒ができている。また、授業内容が「(あまり、まったく)理解できなかった」と答えた生徒は昨年度の9%よりやや減少して8%である。	基礎的な知識の定着に留まらず、もう一步進んだ内容に取り組むため、資格試験との連携をとるよう工夫する。
2 生徒指導	毎朝遅刻指導を行い、基本的な生活習慣を身につけさせる。	遅刻回数が学期に3回以下の生徒は95%であり、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。しかし、意識が低い生徒も若干いる。	毎朝の生徒玄関前での指導等の効果が上がっている。遅刻の多い生徒に対して保護者と連携を密にし、継続して指導する。
	頭髪服装の指導を通して、校則遵守の必要性を理解させる。	生徒は98%の高い数値で、目標をクリアできている。保護者の意識も96%と高く、校則遵守にご協力いただいていることに感謝したい。	規範意識がやや低い生徒に対しては日頃から声をかけ、生徒が自分を律する態度が身につくように粘り強く指導する。
	部活動の充実を図る。	部活動の加入率は、1年生99%、2年生73%、3年生64%である。そのうちの91%の生徒は、積極的に参加している。	部活動の活性化をいっそう図るため、全校集会などで部活動を継続させる働きかけを行い、加入率の維持と向上を図る。
3 進路指導	進路一斉模試、進路一斉指導等を実施し、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図る。	進路に対する意識を高める項目では、3年生が99%、2年生は87%、1年生は87%である。全学年昨年度より増加しており、特に1年生においては、64%から87%へ増加している。	1年生のうちから、県内企業の現状や社会情勢に伝えたり企業見学を行ったりすることで、意識が向上した。2・3年生においても、向上がみられるため、今後も継続して指導する。
	進学や就職のガイダンス、面接、作文指導等を実施し、選考試験に合格できる実力を身につけさせる。	98%の保護者に「子供の進路指導に(おおむね)満足している」という評価をいただき十分な成果を得ている。また、98%の生徒が、身なりや言葉遣いの向上を実感している。	生徒の希望する進路先に進めるよう次年度も面接練習を充実させる。不合格の理由を分析し、生徒が自信をもって入社試験に臨めるように指導する。
4 保健管理	健康診断と事後処理を計画的に実施し、必要に応じて早期治療を働きかける。	健康管理ができたと回答した生徒は94%、保護者は94%であった。新型コロナウイルス感染症予防に関しては、生徒、教員、保護者とも、ほとんどが「注意を払って(おおむね)生活できた」と答えている。	自分の健康課題を意識させ、保護者にも協力を得て、自らの健康管理に取り組ませる。新型コロナウイルス感染症予防に関しても、継続して行う。
	学習環境に関心を持ち、環境の美化・整備を進める。	清掃活動への取り組みについて、97%生徒が取り組めたと答えている。ほとんどの教員が安全で清潔な学習環境の形成に取り組み、96%の保護者が学習環境について満足している。	校舎内外での清掃活動や、清潔で安全な学習環境を形成する体制が出来ている。今後も生徒が自らの学習環境に関心を持てるよう指導する。
5 庶務部	保護者と学校との連携事業(プランター花壇作り、学校祭バザー販売(カレーライス・焼鳥等)、強歩大会湯茶サービスなど)を実施する。	P T Aとの連携事業では、保護者が参加していることや中身についての理解度は99%である。また93%の教員が、保護者との連絡を密にした教育活動に取り組んでいる。	P T Aの方々熱心に活動されている姿を見ることにより、生徒の心に感謝の念が芽生えるよう、引き続き積極的に多くの方々に参加していただけるよう働きかける。
	広報活動の一環として、P T A広報誌「水仙」の充実を図る。	今年度は、コロナ渦で学校行事が削減されたことにより、広報誌第一号を発行していないため、評価から除外した。	今年度は、まだ発行できていないが、保護者に、P T A活動に対して、さらなる理解を深めていただけるよう、充実した広報誌を目指す。
6 図書指導	広報活動を通して、読書に親しみを持たせ、読書に興味を持たせる。	生徒の評価は65%で昨年度より若干上昇したが、まだ目標値には達していない。また、32%の保護者が、読書の必要性をあまり感じていないと回答している。	スマホ、ゲーム等のデジタル機器による若者の読書離れが危惧されている。生徒の読書への興味・関心の持たせ方の工夫の継続が必要である。保護者への広報活動も拡充していく。
7 ものづくり 教育	検定や資格試験に積極的に取り組む。	保護者96%、教職員96%、生徒91%ですべてが資格試験や検定に積極的に取り組み、目標を達成できている。	今後も資格試験や検定に積極的に取り組み、学習意欲を喚起させる。また合格率及び合格者数を上げるよう継続して支援する。
	学科での実習で、基本的知識・技術を身につけさせ、課題研究では、校内での発表会において、成果を披露させる。	保護者96%、教職員94%、生徒96%ですべてが目標を達成できている。実習見学会や課題研究発表会を積極的に利用することが大切である。	実習では基本的知識・技術を、課題研究ではさらに高度な専門的な知識・技術を身に付けさせ、ものづくりに興味関心を持たせる。
	ものづくりコンテストやロボットコンテスト・マイコンカーラリー・デザイン系コンクール等に積極的に参加させる。	保護者は、新聞、テレビ報道等で本校の取り組みをよく理解していただいている。教職員が目標を達成していない。達成できなかった要因として、コロナ渦で、計画されていたコンテストやコンクールが中止になったことが考えられる。	参加生徒が全体の約1.6%のため、少しでも多くの生徒が参加できるよう、実施されるコンテストやコンクールに積極的に参加させる。生徒の参加を促すために、取り組み方を検討する。